

和歌山大学と京都大学が地域づくりの計画作成等を支援

< 和歌山県 >

市町村・集落の名称	秋津野塾（上秋津地区）
協働の相手（企業や大学等）の名称	和歌山大学（和歌山県和歌山市） 京都大学（京都府京都市）
仲介者・コーディネーターの名称	特になし。
協働のポイント	大学側や学生、また他地域の住民に対しても、農村地域の魅力や地域づくりについて学習してもらうとともに、実際に農作業体験等を通して農村や農業を実感してもらう。大学との調整に苦労したところは特になし。
協働のきっかけ・経緯	平成10年に、農業情報ネットワーク全国大会 in 和歌山のフォーラムでコーディネータ（和歌山大学）と、パネリスト（地元農家）・主催者（地元農家）の出会いから、大学側の地域づくり調査や研究で上秋津を訪れるようになり、秋津野塾と和歌山大学とのつながり、現在に至るまで、地域づくりや都市と農村の交流についてのいろいろな連携が続いている。
取組の具体的な内容	上秋津地区の今後あるべき姿を描いたマスタープランの作成や地域の直売所「きてら」の取り組み、今秋オープンした「秋津野ガルテン」への参画や助言、支援を行っている。 また、農商工連携の人材育成事業『秋津野地域づくり学校』の取り組みにも支援を行っている。
農村地域への効果	地域外の新しい風（情報）を吹かせ、一步先をみた地域づくり計画に取り入れ、計画の実現性や経済効果が上がる。また、来訪者との人と人とのつながりが生まれる。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	農業や農村を知らない都市住民や学生に対し、農業や農村の実情や良さを実感してもらうことができる。都会では希薄な人と人とのつながりについて知ってもらえる。
仲介者等の役割	特になし。
今後の課題	農業や農村文化の継承、また地域づくりの必要性を訴え、次世代の地域の担い手を中心に人づくりをしていくこと。
関連事業（国・都道府県等）	豊かなむらづくり表彰事業天皇賞受賞（農林水産省）